

**「東北学院大学 数理・DS・AIリテラシープログラム」**  
**2023年度自己点検・評価結果報告**

東北学院大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門委員会

自己点検・評価の視点		点検・評価項目	取組と評価	自己評価
学内からの視点				
1	プログラムの履修・修得状況	<p>どれほどの学生がプログラム該当科目を履修・修得しているか  <b>&lt;指標&gt;</b>  <b>プログラム該当科目の履修者数、修得者数</b></p>	<p>2023年度目標履修者数1,062名に対して、履修者数は594名（修得者数512名）であり、目標達成率は55.9%に留まり、前年度から大きく低下したことから、プログラムの履修推進の取り組みに課題があるといえる。</p> <p>2023年度の科目配置の変更が影響していると考えられる。2024年度との比較が必要であるとともに、プログラムへの理解を高める施策（情宣等）の工夫や、今後カリキュラム改編が行われた場合の対応の検討が必要である。</p>	B
2	学修成果	<p>履修学生がプログラム各要素の知識を身につけているか  <b>&lt;指標&gt;</b>  <b>該当科目の「授業改善のための学生アンケート」の学修成果を問う設問の結果</b></p>	<p>「授業改善のための学生アンケート」における設問11-1（あなたは、この授業によって得られた成果がありましたか。）については、「大いにあった」「ある程度あった」の回答が「AI社会の基礎」では合わせて93.6%、「統計的思考の基礎」では合わせて95.0%を占め、アンケートに回答した学生のうち多くの学生が学修成果を実感している。</p> <p>同様に、設問11-2（その成果は次のうちどれにあたりますか。）（複数回答）については、「知識の獲得・理解」「技術・技能の習得」の回答が「AI社会の基礎」ではそれぞれ84.0%、47.6%、「統計的思考の基礎」では77.7%、37.4%となり成果の内訳の多くを占めている。</p> <p>のことから、履修学生がプログラム各要素の知識を身につけ、学修成果を得られていると実感しており、目標を達成できたと評価できる。</p>	A
3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>プログラム該当科目が学生が理解しやすい内容となっているか  <b>&lt;指標&gt;</b>  <b>該当科目の「授業改善のための学生アンケート」の理解度を問う設問の結果</b></p>	<p>「授業改善のための学生アンケート」アンケートにおける設問9-1（あなたは、この授業の内容を理解できましたか。）について、「AI社会の基礎」では「よく理解できた」「ある程度理解できた」が合計で全体の95.6%を、「統計的思考の基礎」では全体の93.7%を占めており、理解できたと考えている学生が大半を占めるという結果だった。</p> <p>このアンケート結果より、プログラム該当科目が学生が理解しやすい内容となっていると同時に、学生が十分に内容を理解していることが確認でき、目標を達成できたと評価できる。</p>	A
4	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>プログラム修了が学生にとって他の学生に推奨できるものとなっているか  <b>&lt;指標&gt;</b>  <b>該当科目の「授業改善のための学生アンケート」の有用度を問う設問の結果</b></p>	<p>「授業改善のための学生アンケート結果」アンケートにおける設問12（あなたは、この授業で学んだことがこれから的人生において何らかの形で役立つと思いますか。）については、「役立つ」「ある程度役立つ」を合わせた回答が「AI社会の基礎」では97.0%、「統計的思考の基礎」では97.7%を占め、役に立ったとする学生が大半を占めるという回答結果だった。</p> <p>このアンケートでは直接的に他の学生への推奨度を問う設問は設けていないが、これから的人生において役立つの回答が多いことから、本プログラムが後輩等の他の学生へ推奨できるものと評価した。</p>	A
5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>プログラム履修者数、履修率向上に向けた取り組みが図られているか  <b>&lt;指標&gt;</b>  <b>履修者増加を図る取り組みの状況</b></p>	<p>2022年度と同様に本プログラムの詳細を掲載したwebサイトを用いて、学生への周知を促したが、履修者数が減少したことから周知が徹底されているとは言い難く、履修者数、履修率向上に向けた取り組みに課題があるといえる。</p> <p>これらの取り組みは途上であるため、今後、学生に対してメリット等の周知などの検討を深めたい。専門委員会による自己点検・評価を実施しており、この結果も活用しながら、授業配置等も含め、専門委員会のみならず、上位委員会でのさらなる議論・調整が望まれる。</p>	B

※2023年度評価基準（S：とても良く達成できた、A：達成できた、B：ある程度達成できた、C：50%以下、D：達成できなかった、E：評価不能）

自己点検・評価の視点	点検・評価項目	取組と評価	自己評価
学外からの視点			
6 プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	プログラム修了者がどのような進路を選び、プログラムで身につけたことを活用できているか  <指標> プログラム修了者の進路・就職先と、進路・就職先でのプログラム修了者の評価	プログラム修了者の進路、活躍状況については、まだ本プログラムを修了して卒業した学生の就職・進学後の状況の把握に至っていないため評価できない。今後、卒業生アンケート（卒業後3年調査）に盛り込む等して、評価の方法を検討する必要がある。 企業等の評価については、当初の計画から外部の団体に対するヒアリングやアンケート実施の検討をすることとしているものの、本年度の実施はされていない。今後は委員会を中心として、検討を進めていきたい。	E
7 産業界からの視点を含めたプログラム内容・手法等への意見	プログラムの内容が産業界に求められる学修成果を学生に身につけさせられる内容となっているか  <指標> 外部評価委員による客観的な評価、学外者からのヒアリング結果等	専門委員会の下で、2021および2022年度の取り組みに対して産業界からの視点を含めたプログラム内容・手法等への意見聴取を行うための外部評価を行ったことは評価できる。 2023年度以降の取り組みに対しても定期的な外部評価を実施し、定期的な外部からの意見・コメントを求め、本プログラムを充実させる必要がある。	B

※2023年度評価基準 (S: とても良く達成できた、A: 達成できた、B: ある程度達成できた、C: 50%以下、D: 達成できなかった、E: 評価不能)